

PM_{2.5}のお話 ～福岡市ではどんな調査をしているの？～

環境科学課 中島 亜矢子

平成 28 年度県内保健環境研究機関合同成果発表会

PM_{2.5}は非常に小さく肺の奥深くまで入りやすいという特徴があるため、肺がんや呼吸器系、循環器系への影響が心配されている。しかし、PM_{2.5}の健康影響に関する知見は限られており、未だわからないことが多いのが現状である。

福岡市保健環境研究所では、平成 23 年度から福岡市内の PM_{2.5}の成分の調査を行っており、年間を通して硫酸イオン、続いて有機炭素の割合が大きく、冬季は硝酸イオンが増える傾向にあることがわかった。また市民への PM_{2.5}濃度に関する情報提供などの検討にあたっての調査の一つとして、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて市内の小学生を対象に PM_{2.5}濃度と健康影響に関する調査を行った。期間中の PM_{2.5}の濃度は、平成 26 年度の最高は 49.9 μg/m³、平成 27 年度の最高は 32.4 μg/m³であった。

PM_{2.5}濃度が上昇した場合の子どもの症状の変化を統計的に解析した結果、PM_{2.5}濃度の上昇と症状との間に関連がみられるものはなかった。しかし「マスクをしていた」という項目との関連があり、PM_{2.5}濃度が上昇するとマスクをしていた割合が有意に増加することがわかった。